

工事成績評定 出来形・品質のばらつき判定考査表

[出来形の場合]

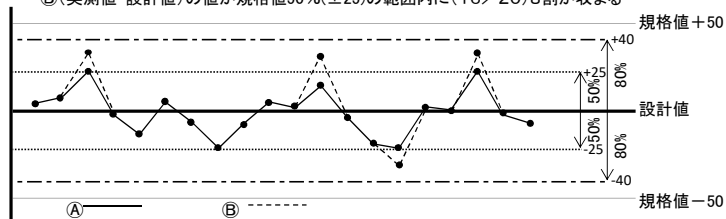
参考例:掘削工基準高 ± 50

(上・下限値がある場合)

①ばらつきが50%以下と判断される(管理点数20)

①(A) (実測値-設計値)の値が規格値50%(± 25)の範囲内に20点全て収まる

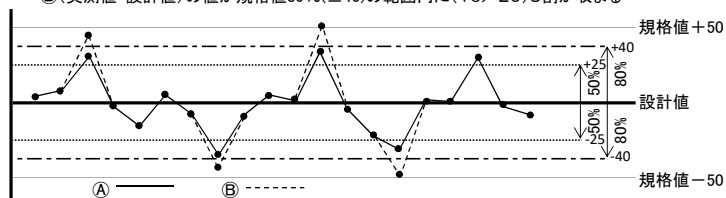
①(B) (実測値-設計値)の値が規格値50%(± 25)の範囲内に(16/20)8割が収まる



②ばらつきが80%以下と判断される例(管理点数20)

②(A) (実測値-設計値)の値が規格値80%(± 40)の範囲内に20点全て収まる

②(B) (実測値-設計値)の値が規格値80%(± 40)の範囲内に(16/20)8割が収まる

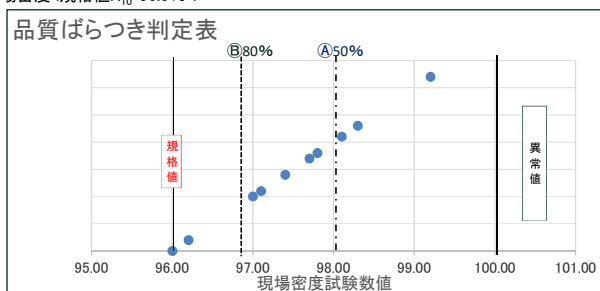


[品質の場合]

参考例:アスファルト舗装現場密度<規格値 X_{10} 96.0% >

規格値	試験数値	差
96.00	97.40	1.4
96.00	96.70	0.7
96.00	97.80	1.8
96.00	98.10	2.1
96.00	96.00	0.0
96.00	98.30	2.3
96.00	97.10	1.1
96.00	99.20	3.2
96.00	97.70	1.7
96.00	96.20	0.2

管理点数10



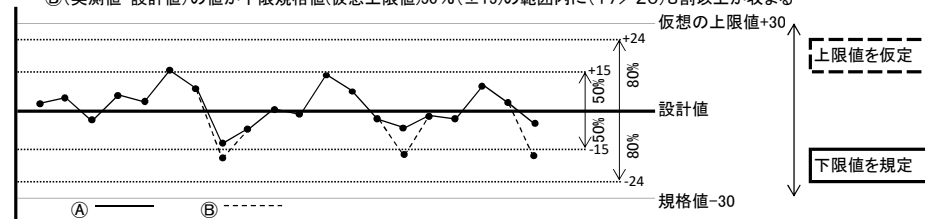
参考例:基礎工幅<規格値-30>

(下限値のみの場合)

③ばらつきが50%以下と判断される例(管理点数20)

③(A) (実測値-設計値)の値が下限規格値(仮想上限値)50%(± 15)の範囲内に20点全て収まる

③(B) (実測値-設計値)の値が下限規格値(仮想上限値)50%(± 15)の範囲内に(17/20)8割以上が収まる



★ 規格値を満足するとは、規格値を外れていないこと。規格値が±とあるものは範囲内、+又は-のみの場合は仮想値の範囲内とする。

※ プラス側規格値を外れた場合も規格値外と判断する。(異常値との見方)

※ ばらつき度50%、80%は、管理点数の8割が各範囲内に収まっているから判定する。

★ 試験数値は、規格値を満足していること。

① 50%ラインは、規格値96.0と100.0の平均値である98.0となる。

② 80%ラインは、 $100.0 - (100.0 - \text{規格値} 96.0) \times 0.8$ の96.8となる。

※ 100.0を超過する試験数値は、異常値とする。

[ばらつき判定結果]

① 50%以内の範囲 点数3

② 50%を超え80%以内の範囲 点数5

③ 80%の範囲を超える 点数2

以上から 点数割合が8割となる②の80%以内と判定

2. ばらつき判定の取り扱い

各管理基準にあるすべての工種について、判定を行う。 ※検査員は、主たる工種(工種明細表のレベル2)で判定を行います。